

活動レポート

日本技術士会北海道本部 地方委員会

道東技術士委員会

文責：道東技術士委員会 幹事長 鈴木 正裕

令和 5 年度

第 81 回総会・情報交換会／第 82 回見学会・講演会

1. はじめに

恐るべき感染症が世界を席巻して 3 年ほど、これほど『公衆衛生』というものに対して様々な気付きを得る期間があっただろうか、という時間を経て、病は未だに我々の隣にあるものの、対策を立て、受け入れるべきは受け入れ、社会全体がようやく少しずつこれまでのような生活に戻りつつある中、我々道東技術士委員会もまた、少しずつ活動を再開しました。今回は令和 5 年に我々が行った活動をレポートとしてご報告いたします。



写真-1 企画を説明する森田技術士と参加者

2. 第 81 回総会・情報交換会

「さすがにそろそろ動き出しましょう」という代表の声の下、手始めというかりハビリというか、先ずはコロナ禍での委員会の活動報告と今後の活動計画、そして久々の顔合わせをしましょうということで、総会と情報交換会を企画、開催しました。

○日時：令和 5 年 7 月 28 日(金) 18:00 より

○場所：IN THE SUITE(帯広市)

こちらでは、紅葉代表から技術士を巡る最新の動向についてお話し頂いたのち、事務局から事業報告・決算報告及び新年度予算案について報告、提案し、ご出席の委員の皆様にご承認頂きました。

また、森田技術士より道東の猛禽類についての勉強会の企画をご提案頂きました。このご提案が次の見学会・講演会へとつながってゆくこととなります。

情報交換会では久々の顔合わせとなった委員同士の現況報告などが活発になされ、また新たに加わった 4 人の仲間たちにも一言ずつご挨拶を頂き、盛会の内に会を終えられたこと、正直少しホッとしたのを覚えています。



写真-2 4人のニューカマー

3. 第 82 回見学会・講演会

活動を自粛している間とは打って変わって、再度動き出した時のエネルギーとはこれほどなのかと思わずにはいられませんでした。森田技術士のご提案をすぐに実行に移すこととなりました。

森田技術士から提示された企画では、

・釧路湿原をはじめとする道東には多くの猛禽類が生息している。

- ・道東の猛禽類は野鳥観察で世界的に人気が高くなっている。
- ・猛禽類は生態系の頂点に位置しており、環境の影響を大きく受ける。
- ・猛禽類のロードキルは既に深刻であるが、釧路湿原では道路事業、河川事業の他、太陽光パネル設置等民間の事業が実施されているが、猛禽類に与える影響を極力減らすことが求められる。

これらの理由から、道東に生息する猛禽類がおかれている状況、及び猛禽類保護の取り組みについて官民一体で改めて学ぶ機会を設けよう、とのご提案がなされていました。これを受け、森田技術士にもいろいろとご尽力頂き、森田技術士が社長を務められている北開水工コンサルタント株式会社と当委員会の共催という形で見学会・講演会を開催することができました。

(1)見学会

○日時：令和5年10月30日(月) 13:30より

○場所：環境省釧路湿原野生生物保護センター

見学会では、株式会社猛禽類医学研究所にご協力頂き、保護センターの展示についての説明を通してシマフクロウやオジロワシ等の道東の猛禽類について教えて頂いたほか、バックヤードツアーを開催して頂き、センターに保護されているオオワシなどの様子や、実験が予定(執筆時にはすでに実験が開始されている)されている垂直軸型マグナス式風力発電機についても教えていただきました。



写真-3 施設内で説明する渡辺氏と参加者



写真-4 バックヤードツアーの様子



写真-5 ケージの窓越しに見る収容個体(オオワシ)

風力発電の風車によるバードストライクや、自動車、列車との衝突等によって保護センターに収容される鳥たちは、命が助かったとしても必ず自然に返すことができるわけでもなく、終生飼育となる個体が存在する事実、そして、それらの飼育個体には新たな事故を起こさないための研究に協力してもらっているという事実は、各参加者の目にどのように映ったでしょうか。

見学会の最後には、研究所の皆さんが全道を飛び回るために運用されているドクターカーも見せて頂きました。このドクターカーの運用は(おそらく)世界初で、このドクターカーを寄贈されたのが、テレビでよく顔を拝見する、「おもてなし」のあのお方の運営される財団だと聞いて、無知な私は大変驚きました。



写真-6 ドクターカー

(2) 講演会

見学会終了後、場所を移し、環境省の若松氏と株式会社猛禽類医学研究所の渡辺副代表に、道東の猛禽類がおかれている現状、及び保護の取り組みについてご講演頂きました。

○日時：令和5年10月30日(月) 16:00より

○場所：釧路プリンスホテル

①講演1：シマフクロウ、オジロワシ・オオワシの 現状と保護の取り組み

講師：環境省釧路自然環境事務所野生生物課長
野生生物企画官 若松 徹 氏



写真-7 若松氏の講演の様子

若松氏の講演では、環境省が取り組んでいる猛禽類の保護の現状について、また、保護を減らすため（鳥類の安全確保）の研究、取り組みについてご講演

頂きました。道東に住むものにとって、オオワシやオジロワシという存在はそれほど特別な存在とは感じられていないかもしれませんが、講演を通じて、それらの鳥類が保護の対象であること、また、彼らのような食物連鎖の頂点に君臨する存在であっても、人為的活動によりその生存が脅かされていることを改めて認識しました。特に見学会から参加し、様々な保護活動の現実に触れた参加者にとっては、かなり身近な話題として感じられたのではないのでしょうか。



写真-8 講演する若松氏

②講演2：鳥類の収容から環境で起きていることの 事象を推測する

講師：株式会社猛禽類医学研究所 副代表
渡辺 有希子 氏



写真-9 渡辺氏の講演の様子

若松氏の講演に続き、渡辺氏の講演では、保護活動の最前線で活動されている「生の声」を色々とお聞かせ頂けたように思います。見学会で見せて頂いたドクターカーの運用についても、正直「ここまでするのか」という驚きを感じた一方、猛禽類をはじめ野生生物の保護についてまだまだ課題が残されていることも感じる事ができたように思います。



写真-10 講演する渡辺氏

(3) 懇親会

講演会終了後、参加を希望する委員に講師のお二人を加えて懇親会を開催しました。各所との日程調整の関係上、通例とは異なる月曜開催となったこともあったのか参加人数は少なめでしたが、そのせいかいつもよりもアットホームな雰囲気できれいな会となり、こういう集まりも良いものだとなと再認識しました。



写真-11 懇親会で挨拶する紅葉代表

なお、懇親会の終わりには、小松田技術士の音頭による、道東技術士委員会恒例の万歳三唱で会を締めたことを付記しておきたいと思います。

4. おわりに

新型コロナの感染予防のための活動自粛が終わりを迎え、我々道東技術士委員会も活動を本格的に再開しましたが、令和元年以来の講演会を行うにあたっては、委員の皆さんに力強い後押しを頂き、多数の方にご参加頂きました。

〈各講演会等の参加者〉

第81回総会・情報交換会：35名

第82回見学会・講演会：

見学会36名、講演会57名、懇親会28名

特に、お忙しい中講演会の講師をご快諾頂いた若松様、渡辺様、講演会の開催にあたり講演会の趣旨にご賛同頂き多数ご参加頂いた、北海道開発局釧路開発建設部の田村部長をはじめとする釧路開発建設部の皆様には厚く御礼申し上げます。今回の講演会が猛禽類等の野生生物保護のなにかのプラスワンになれば幸いです。

また、今回の講演会の開催まで、企画立案から各所への働きかけでご尽力頂いた森田技術士と、見学会・講演会当日色々とお手伝い頂いた北開水工コンサルタント株式会社の皆様、道東技術士委員会の皆様には重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。

余談ですが、環境省の若松様は技術士資格取得にご興味を持たれているとのこと。また、猛禽類医学研究所の渡辺様は社内で技術士を養成したいとのことでした。技術士資格取得の暁には我々の仲間として加わって頂ければ嬉しいです。

今年はなんとか、皆様の後押しを得てそれなりに恰好が付くかたちで総会や講演会を行うことができました。改めて御礼申し上げるとともに、今後また新たに講演会等を企画し、道東技術士委員会の皆様と、そこから連なる方々のお力をお借りして、多少なりとも地域に貢献していけたらと思っております。これからもどうぞよろしくお願い致します。